

令和5年度第1回検討会での主なご意見と対応

令和5年度第1回検討会での主なご意見と対応(1/2)

ご意見の観点	調査・検討方針に対する主なご意見(議事概要から抜粋)	対応
ASR再資源化工程におけるGHG排出実態把握について	原単位設定の確からしさを精査することにより、より原単位の小さい処理方式の処理量を増やす差配が可能かについても検討してはどうか。 熱回収と、マテリアル方式のエネルギー使用量やGHG排出量との損益分岐点のようなものも意識した、ASR再資源化工程の処理方針の検討も必要だろう。マテリアル方式が最適な処理方針と言い切ることに疑問がある。 金属リサイクルにより発生するGHG排出量も含め総合的観点で、ASR再資源化工程ではどのような処理方式が良いのかを考える必要がある。	資料3で、ASR再資源化工程の排出実態の整理と、排出削減方策の考え方についてご説明。
GHG排出量削減効果について	GHG排出量控除の大小のみで最適な処理手法を結論付けるのは好ましくない。GHG排出量控除評価の意図としては、分別や選別をするとエネルギー消費量が増える一方で控除の効果が大きく、社会全体として排出削減効果が大きいという形で、リサイクル活動の有効性を確認することである。	
GHG排出削減の手引きについて	手引きのアップデートが数年後ということだが、手引きを見て実際にそれらの取組を行ったことの効果を把握するためのヒアリングを早期に実施することが重要と考える。 手引きは「A4両面1枚程度」の粒度で作成するということだが、作成には相当な背景情報が必要になるため、どこまで公開できるかを両省と相談の上、可能な限り公開する方向で進めてもらいたい。「A4両面1枚程度」に拘らずに作業を進めてもらうのがいい。	資料5-1で手引き(案)の構成、内容をご説明。本年度、解体・破碎事業者からの意見聴取を実施。
GHG排出量算定モデルについて	将来的にバイオマス由来の部品のGHG排出控除についても考慮できる仕組みが必要になるため、そのような設計にすることを検討してほしい。	本年度成果としての算定モデル(案)については資料5-2でご説明。ご意見の点は次年度以降の検討課題とする。

令和5年度第1回検討会での主なご意見と対応(2/2)

ご意見の観点	調査・検討方針に対する主なご意見(議事概要から抜粋)	対応
資源回収インセンティブ制度におけるGHG排出量について	解体時に取り外したものをリサイクラーに渡す段階と、破碎後に選別したものをリサイクラーに渡す段階という実際の流れに合わせた項目立てにした方が、使う側はイメージしやすい。 GHG排出量算定方法のバウンダリについて、全体のプロセスで考えた場合のバウンダリを明確にした方が良い。また、資源回収インセンティブ制度内のみで通用する算定バウンダリでは意味が無いので、一般的に使用されるものになるようにした方がよい。 自動車リサイクルのフローによって排出係数がどう変わるかを併せて議論することで、資源回収インセンティブ制度に参加する各コンソーシアムの特徴を捉えた排出係数のパターン化ができるかもしれない。そのような検討を行う上で、コンソーシアムの申請時にどのような情報を提供してもらいたいのかという論点を考えてみてはどうか。	資料3及び資料4でご説明。
ガラスリサイクルについて	回収したガラスがグラスウールにしかならず、また破碎工程で回収したガラスについてはあまり使い道がないという状況がある。そのような中で、このままガラスの回収・処理に取り組んでよいのか、という疑問がある。ガラスの回収費用と、解体・破碎業者にとってのメリットを考えた場合、現状ではガラスの回収は現実的でないと考える。 ガラスの回収・処理に係るコストとは別軸の議論として、今後ガラスの需要が無くなる可能性や、逆に増加する可能性についても考慮すべきである。ガラスの回収・処理に関しては時間軸を意識して方策等検討するのがよいと考える。	
調査の全体方針について	リサイクルが進むことでカーボンニュートラルに近づくことが見えるイメージを描けると、アウトプットとして分かり易い。そのための議論を本検討会でできると良い。 ELV規則案は厳しい内容と捉えている。ELVを回収し資源化するためには様々なステークホルダーと協力しながら積極的に取り組むことに異存はないが、再生材使用の数値目標を規定されると、新たな問題が生じると危惧している。再生材を作る工程と再生材を使う工程のGHG排出量のバランスを見ながら政策議論をすると良い。 時系列的な対応については、柔軟な対応や若干の変更が可能であるならば、資源回収インセンティブにロードマップのようなイメージを提示していかなければ、伝わりにくいのではないかと。 再生材原料の回収率やリサイクル率等の定量情報を把握するための事前準備を行った上で、今後のヒアリングに臨むようにしていただきたい。	資料3及び資料4で、資源回収による排出量削減効果の試算結果をご説明。 資料4で、資源回収・再生材利用拡大に向けたロードマップイメージをご説明。 本年度のヒアリング調査において、事前に定量データを把握したい旨を具体的に説明し、可能な範囲で把握。